

令和5年度 第1回白馬村総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和5年9月27日(水)
開会 午後 1時56分 閉会 午後 3時12分
- 2 会 場 白馬村役場2階 庁議室
- 3 出席者 白馬村長 丸山 俊郎
白馬村教育委員会
教育長 横川 秀明
職務代理 幅下 守
委 員 田口 令子
委 員 松沢 亨
委 員 武田 弥生

(説明等のために出席した職員)

総務課長 田中 克俊

(事務局)

教育次長 横川 辰彦
生涯学習スポーツ課長 松澤 宏和
子育て支援課長 内山 明子
教育係長 今井 志保

- 4 協議事項 (1) 図書館複合施設の整備方針について
(2) 白馬村教育振興基本計画策定のためのアンケート調査について

5 議事の概要

1 開 会

[教育次長] 開会を宣言した。

2 あいさつ

[白馬村長] 総合教育会議だが、地方公共団体の長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としている会議である。構成員は、教育長と全ての教育委員と私。位置づけは、教育委員会と地方公共団体の長という執行機関同士の協議と調整の場。新型コロナウイルス感染症の影響で長らく行ってなかったが、忌憚ない意見を伺わせていただき、今後の方向性、課題解決を図っていきたい。

3 協議事項（議長は丸山村長）

（1）図書館複合施設の整備方針について

[生涯学習スポーツ課長] 資料に沿って、事業規模の縮減や財政試算、施設整備の方針について説明した。

[松沢委員] 実施可能年度の判断は、1年以内とか、どこまで引きずるのか？

[生涯学習スポーツ課長] 年内か年度内。

[村長] 9月に方針を出すと話していたが、財政シミュレーションをせねばならず、その精度を上げるには結構な時間がかかる。アバウトに言うと年内ぐらいではあるのだが、シミュレーションから、どう判断するかということもあり、更に調べることが出てくるかもしれないし、今ここで明言はできない。

[幅下委員] 最初に話しを聞いたときは、当然できるものだと思っていたのだが、費用面で難しいという話しになって、今回、それが具体的にでてきたと理解している。

このあと、例えば10年ぐらい経つと北小の北校舎とか、南小の南校舎が65年ぐらいになってくる。単独にするのか、あるいは一緒にして新しい学校にするのか、それはまだ決まらないにしても、大きな出費が出てくる。

そういうことを考えたときに、今回の複合施設を建ててから、そちらが出来るのか？もし駄目なら、優先順位を考え直しながら、よりやるべきことを洗い出していく必要があると思う。その辺の見通しを聞きたい。

[村長] 課長会議でもその辺の話は出ていた。延ばせばいいというものではなく、かえって後に伸ばすことにより財政的には、負担になる可能性が高いという話しも出ている。精度の高い財政シミュレーションを踏まえて、やるならこの辺だろうという一定のものは出ているが、現段階では、やってしまうと、なかなか財政的に厳しくなるということで、判断に至っていない。

村民が求めているもの作りたいという前提でやってきているが、当初のものだと、金額的に大きくなりすぎる。規模を縮小すると官民連携は難しいという結果が出た中でも、何とかやりたいと思いながら進めている状況である。

[総務課長] 今月の課長会議で各課に対して、この個別施設計画の再度の見直しを指示する。個別施設計画とは、今それぞれの課が持っている施設を、何年後にどういった修繕をするかが記載されたものである。

財政係が精査して平準化しながら、この図書館複合施設をどの年度に当てはめれば、財政的に回っていくかを検討する。その見直しの時期は、年内、できるだけ早くやりたい。

実施可能年度の判断は、それぞれの個別施設計画の中に上手く当てはめられるかを検討してから。あくまでも現段階では、教育委員会から図書館と子育て施設を複合でと伝えられているので、我々はその複合のシミュレーションをしていく。

[武田委員] ずくの音ホールは、施設的に非常に良い。白馬に引っ越したら、最初、すごく子育てしにくい印象があった。大町には、あずみの公園とか子供が遊べるカフェもあり、隣接している公園がある。白馬村には、グリーンスポーツがあるが、整備が進んでいない。あとは観光客相手の価格になっており、簡単に村内の子が遊べる環境になっていない。この子育て施設はすごく重要になる。充実させていただければ安心して子育てができる。

縮小は仕方がないが、複合施設のなかでも優先順位をつけ、伸び伸びと子育てできる施設があればいいと思っているので、お願いしたい。

[子育て支援課長]子どもが安心して遊べる公園が欲しいと、かなり前から言われていて、複合施設と一緒に作る方針になっていた。遊べる公園が必要とは思っている。あと雨の日でも遊べる室内の遊び場も複合施設の中には入っている。これは、その他の面積のなかに入っている。

[松沢委員]官民連携が難しいという結論になったと聞き、ホームページも探したが、その会議録が見つからなかった。どんな意見が出たか教えてほしい。こうすれば可能という前向きな意見も出たのであれば聞きたい。

[生涯学習スポーツ課長]官民連携調査の中で、規模縮小、事業縮小で、これではスケールメリットが生かせないという結果である。

令和4年の官民連携調査事業で、例えば図書館1200㎡の時点だったら、運営的には4社ほど参加希望があった。合計面積を落とすと、結局、規模が小さいので民間のノウハウが生かせない。なので、縮減案の中では、そういった民間の力を入れずに、従来方式、官でいくという結論に至った。単純に、規模だけの問題が一番大きい。

人口が何万人もある大都市なら官民連携も多いが、長野県で図書館複合施設を整備している実績はあまりない。メリッ特的、事業規模的なものが一番問題と認識している。

[松沢委員]例えば当初計画の規模であれば、参入可能性があった？

[生涯学習スポーツ課長]はい。

[武田委員]委員会の活動はどうなったのか？

[生涯学習スポーツ課長]去年は、この官民連携事業の中で、いろいろな意見を集めるスタンスの委員会があった。

[武田委員]例えば、こういう形が良いといった意見を言う委員会はあるのか？

[生涯学習スポーツ課長]今はない。去年は官民連携調査事業の中で、新たに作った検討委員会からいろいろな意見をいただきつつ、最終的に、村の方がまだまとめられていないという状況。

複合施設の基本計画の見直しをしているが、財政的にもどの方向で行くというのが、年内を目標に更なる詰め作業を行うので、それが見えてこない図書館複合施設の計画を見直したあとの計画も定まらない。

[村長]事業規模を縮小するとバリュフォーマナーがない。事業規模が大きいと、その分、年間の維持管理費もかかる。それだけの財政の余裕がない。そこは、多分精査しないまでも判断ができるくらい大きな金額だった。

[生涯学習スポーツ課長]今この場では、いくつかのサンプルをあげながらの具体的な説明は難しい。

[松沢委員]今の話しから判断すると、もう官民連携では無理だと。そうすると、もしやるとすれば、村単独で複合施設で行う方向が強いということか？

[生涯学習スポーツ課長]一切民間に頼らないということではなくて、一般的なPFI、官民連携を使った建設だとか運営はないにしても、民間を利用する、そういう道も探っていく。一切、民間を入れないことではない。民間への部分的な委託とか、そういう部分は今後も

研究して探っていく。

[松沢委員]できるだけ村の支出を抑える方向でいくということか？

[武田委員]官民連携の募集をかけたとき、どの企業に、どんなふうにオペレーションをしたか？

[生涯学習スポーツ課長]村のホームページで公開して、応募を受け、あとは Zoom とか SNS を使った中でのヒアリングをし、調査表を出してもらったりして進めた。コンサル担当会社が多く、図書館の運営会社もあった。

[村長]参入意欲のあったところは何社かあるが、縮減した場合には、できませんということなので、行政として進めるためには、村単独でやることを前提として、少しでもお金がかからないようにして、事業者と協働できる部分は探っていく。今、具体的に名前が出ているようなところと、今後交渉ができないわけではない。行政単独でやることを前提としたシミュレーションをして、いけるかどうか判断しなければならない。

[武田委員]地元の企業に参入意欲はないのか？

[生涯学習スポーツ課長]去年は、そもそも PFI って何だろうという勉強会から始めたが、地元の企業から積極的にエントリーはなかった。数社が連携して取り組む事例もある。資料の官民連携の検討で、施設整備運営においても、今後、可能な限り民間事業者の知見・提案を活用できる手法について、カフェは、村の個人事業者の協力を得る部分が残っていると思う。

[武田委員]オペレーション方法を変えた方が良いのでは？これだけ村内には外資系の企業も入っているし、地元と連携をとりながら、いろいろ取り組む意欲のある企業もあると聞いている。いろいろな方向で、もし可能性があれば検討してほしい。

[村長]村としても、そういうところがあればありがたい。行政手続き的に、正当な手段を踏んだ上で、そういうところと連携が取ればいいと思う。好感触なことを言う企業は多い。実際、トップの人が良いと言っても、現場サイドが、この状況を見て、やると言うところがないのが現状。皆さんのイメージとして、あそこだったらやってくれるのではないかという考えがあるだろうが、現段階で、具体的なところまで踏み込んでやると言ってくれるところはなかった。

[教育長]教育委員会としての方向性は、ぶれないように事務局としては、もう何回も打ち合わせをして来た。委員にも逐次報告はしていたが、複合施設として何とか建設をしたいというところは一致している。

議員の一般質問の中で、この件が出てから、もう 10 年弱かかっている。村民の中には、ワークショップもやり、勉強会もやり、いろいろな意見交換をしていく中で、まだ決まらないのかという不満があるのも事実。

そういう中で、例えば子育て施設については、中部保育園の跡地でやっているが、かなり老朽化しており、延命措置をして使ってはいるが、その更新を優先すべきではない意見が出ている。図書館とは別に、そこだけを先にやった方がいいという意見もあったが、教育委員会としては、子育てと図書館は対のものであり、複合化施設は全国各地で、あるいはこの大北地区にもある。そういう事例を見る中で、何とか複合施設で作れるよう財政局とシミュレーションをしてきた。

結論的には、現段階で、当初の計画で進めるのは難しいということになった。

議員からも厳しい指摘はあり、財政を預かる立場から考えると、無理して作ることによって村民にデメリットが出るのではないかという心配もあった。教育委員会の意見としては、何とか複合で考えていただきたいが、何年か先の将来を見ながら、いい方向が出せればと思っ

(2) 白馬村教育振興基本計画策定のためのアンケート調査について

[教育次長] 資料に沿って、調査目的や対象者ごと回答の考察、全回答の考察などについて説明した。

[幅下委員] 基本的なところで、白馬村の教育振興基本計画を策定するためのアンケートということで、アンケートについては今まで聞いている。この白馬村教育振興基本計画は、教育のもっと広い意味で学校再編とかも含めて、そちらを主にした計画ということか？

[教育次長] 教育大綱があつて、総合計画があつて、さらにそれを個別に進めていくための具体的な基本方針ということで、学校、社会教育、社会体育、それらを今後 5 年程度の間に、どのような方針で進めていくかの具体策を盛り込んだもの。

前平林教育長のとき、学校の統合や適正規模については、この計画の中に盛り込んで目標を立てていきたいということだったので、今回、あり方検討委員会で提言された幅広い意見をもとにアンケートで吸い上げたので、これを何らかの形にしていきたいというのが事務局の考え方。

今年、国と長野県は出来ているので、来年度から始めたい。村の総合計画は、5年の間に途中で変わるので、そのとき、それに合わせてまた見直しをかけたい。

[幅下委員] 学校について、かなり具体的に示したことになるのか？

[教育次長] そこまではっきり言ってしまうと、いろいろ問題がある。

[幅下委員] アンケートを見ると、いろいろな意見があるが、多くの人が、今の現状で答えている。子供は、現状を答えているし、住民は、自分の昔の現状を含めてだから、これといったものがまだ無い中で、今後どのような手順で進めていくかが気になる。みんなが納得する進め方は、なかなか難しいと、ほかのところの様子を聞いて、かなり慎重にやっ

ていく必要があると思った。

[教育次長] 少子化に向けての適正配置などを具体的に、いつまでにとかいう感じにはしていきたい。

[松沢委員] 以前、基本計画の草案を作っていないか？これに今回のアンケートを総括したものを加えるということか？

[教育次長] そう。

[松沢委員] 今年大綱の見直しをするのか？

[教育次長] 大綱はもう終わっている。

[松沢委員] 今年策定するのが、この基本計画か？

[教育次長] 基本計画自体が決まっていなかったので、改めて決める。5年計画とした場合に、白馬村の総合計画が、その間に 1 回終わって、新しい計画になる。なので、それに合わせて、大綱も、この基本計画も修正をかける必要があると思っている。

〔松沢委員〕前にもらった基本計画の素案のなかに、先ほどの図書館の方向性もあり、それも加味するのか？

〔教育次長〕はい。

〔教育長〕アンケート結果についても、この集計と、さらに細かいものも見たが、意見は様々だった。アンケートをとって一般村民の36%という回収率は高いと思った。

逆に、保護者の二十数%は少ない。何で少ないかと考えると、今の保護者だから、5年後、10年後は、まあいいかなと思って答えなかったと思うが、現在の状況でのアンケート調査結果とすると、これが5年後10年後はどうなっているかの分析は難しいし、これを、5年先の計画や何かにそのまま生かすのはやはり難しい。

ただ、アンケート結果の中には、驚くようなデータがあった。全国平均とか全国の子供たちと違っていたり、あるいは、保護者の考え方についても、ずいぶん違うと思うところが、いくつかあった。それも含めて、様々な年代の人から意見をいただいたのは、私たちもあり方検討委員会に感謝しながら、5年先10年先を見据えた、計画をしっかりと立てていかなければいけないと考えている。

〔松沢委員〕アンケート結果は、もっと本当に細かいいろいろな意見があった中で、この最終ページの考察は、大変上手くまとめられていると感心している。

〔幅下委員〕このアンケートの中でも、多様化の白馬村をうたっており、外国籍の子が非常に多くて、北小は本当に困っている。ぜひ補助の先生の増員を積極的に進めていただきたい。

そのなかで、英語が嫌いという考察があった。小学校で二十何%、中学で四十何%。各クラスに英語を話す子が複数人居る、こういう白馬村の環境の中で、そういう子たちと接しているのに、なぜ英語が嫌いというアンケート結果が出るのか。

他国籍の子たちは、日本語で一生懸命、生活しようとしている。もっと自由に話せて学んでいける場を、周りの日本国籍の子も使ったり、それが日常的になっていくと、こういうアンケート結果が出ないのかなと思った。

〔村長〕英語が嫌いと言っている子たちの理由は？

〔教育長〕前提として、授業が嫌だというのがある。その中で嫌いになっているのかなと思う。小学校よりは中学の方が英語が嫌いという生徒が増える。高校になればもっと増えると思う。

やはり先生方の指導とか授業の工夫は必要。小学校5、6年生の英語の授業を2、3回参観した。絵やタブレットを使い、楽しくやっているように見えたが、英語の先生も専科の先生が工夫しながらやっていた。だが、関心がなさそう、面白くなさそうな児童も中にはいる。

〔村長〕今、この環境のなかで友だちと喋っている分には、好きであればありがたい。友だちと喋っている英語が嫌いとなると困る。

教員は、これから確かに工夫が必要。保育園も言葉が通じなくて手こずっているという意見もいただいている。その辺は、今後さらに進んでいくと思う。

〔教育長〕北小は、外国籍の子供たちが2桁になった。日本語の専門の先生が、県から週に2日、村採用の先生が、週に4日勤務している。篠ノ井から通って来ており、本当によ

くやってくれているが、子供の指導だけじゃなくて、例えば学級通信の英訳まで任せられ、大変な負担になっている。県にも、ぜひ日本語の先生を増やしていただきたいと頼み、2学期から週2日になった。1学期までは1日だけだった。子どもだけでなく親も日本語が通じない状況なので、そういう負担を少しでも軽減したく、県にも要求はしている。和訳アプリも使っているが、内容が少し変わってしまい、まだ上手く使えない。特に英語圏がほとんどだから、英語はまだ良いが、たまたまポルトガルとかから来ると、生活も大変なようで、福祉の方と相談しながら対応をしている。

〔総務課長〕北小の校長から、日本語を英語にするアプリが正確に伝わるように、やさしい日本語をまず書くことをアドバイスしてほしいと言われ、先日、教頭先生に、総合窓口の担当者から、実際に通訳をしたり文章を書いたりする中で、日本人の喋り方の悪い癖、主語がなかったりなどのエピソードを話してもらったので、近々、学校で先生向けの研修をやると思う。

(3) その他

〔田口委員〕前に、少子化対策で、例えばこの白馬で生まれ育った子が、東京とか関西の方に行くと、白馬へ戻って来たいとき、何か働ける場所を作ってほしいとお願いした。今は住むのも大変。高く、美麻や小川に住みながら白馬へ通っている現状なので、生まれ育ったところで暮らせない子がたくさん居て、すごく寂しい。

地価もどんどん上がっており、これから白馬はどうなるのか気になる。

〔村長〕観光が成功すると不動産価値が上がるという意味では、経済として成功している指標になっている。

移住にも高いという意見はすごく出ていて、村で何とかできないかと一般質問にもあったが、村有地を活用してとか、村営住宅など、答弁の中でも、そうした場合には低所得者とかいろいろ規定があるので、実際に来た人たちが、ちゃんと住める場所を考えていかなければならない。

一方で、それこそ民宿は建物が残っているのに、後継者がいなくて廃業に進んでいるようなところもあるので、いろいろな効用、要素がある中で、どういった結論を出していくかは難しいが、そういう意見があるということは把握している。

空き家対策の話も出てくるが、実際にマッチングをしようとする、探している人がいても、提供する側が、知っている人じゃなきゃ貸さないとか、空き家自体はあるが、うまくマッチングがいかない現状もあった。実際にリノベーションすると、すごいお金がかかるので、だったら普通に建てた方が安いという話しにもなったり、課題がすごく多い。一朝一夕には解決しないが、課題としては非常に認識している。

帰ってきたときに仕事があるということは、その分、景気がいいということで、地価は上がる。もし帰ってきて仕事があるくらい潤っている場所であれば、不動産は上がる。その辺がすごく難しい。個人売買なので、村がそれを止めることはできない。

〔武田委員〕経営コンサルタントなどが、長野県、全国で、こういうことをしていると把握しているか？

〔村長〕行政では具体的に把握していない。個人売買の中で、転売を目的とした人に売っ

てしまっているという事例はあるのかもしれないが、村でどうこうできるものではない。地価の高騰に関しては大きな課題だと思っている。

例えば、地元の子が帰って来て、住めるような田舎は、不動産は安いけど、それだけ仕事はない。実際、帰って暮らしていけるだけの収入があるか難しいところ。複合的な要素があるので、非常に難しい。住む場所の確保に関しては、村としても空き家対策、村営住宅の活用を検討している。

行政としてできることは頑張って進めていきたい。

[教育次長] 例年でいくと、予算が固まったら、また総合教育会議で報告になるので、予算が固まったころ、またお願いしたい。

4 閉 会

[教育次長]

閉会を宣言した。